

No.	委員	意見等		市の考え方	担当課	
1	成田委員 (公募委員)	資料3 P11,13		「フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みがない」の回答について、実現できる見込みがない理由が分かれば知りたい。例えば、職場にフルタイム職員の枠がない、子育て・家事・介護などの役割負担が多くフルタイムは難しい等。	当該設問につきましては、「教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策」の算出にあたり、国の手引きの方法で算出するために必要な設問として例示されているものでありますが、実現できる見込みがない理由につきましては、国の設問例になく、また市独自の設問としても設けていなかったことから、理由は把握できないところであります。	子ども未来部 子ども企画課
2	成田委員 (公募委員)	資料3 P16		なぜ、函館は生活保護の受給率がこれほどまでに高いのでしょうか。	本市の生活保護率については、平成26年度の4.75%をピークに、減少傾向にあるものの、依然として高い水準で推移しており、全道の市を見ましても、釧路市に続き、2番目に高い保護率となっております。 これらの要因として考えられることは、本市における高齢化率が本年3月現在で37.2%と、高齢化の進行が著しいことや、道南の中核都市として、精神科病院を含めた医療機関や介護施設が集積していることなどが、少なからず影響しているものと思われます。  【参考】 ○道内保護率上位5市（R6.3道生活保護速報より） 1位：釧路市4.76、2位：函館市4.56、3位：札幌市3.66、 4位：小樽市3.62、5位：旭川市3.60	保健福祉部 生活支援総務課
3	成田委員 (公募委員)	資料4 P15	放課後児童健全育成事業	東部4地域の放課後保育の確保方策は南茅部だけとのことだが、他の3地域については、今後どのような対応を予定しているのかわかりたい。	南茅部以外の3地域については、事業を実施できるほどの利用児童数が見込めないことから、確保方策としては見込んでおりませんが、令和5年度に各小学校に対し、子どもたちの放課後の過ごし方などについて、聞き取りによる実態把握を行ったところ、それぞれの地域で放課後の過ごし方は異なるものの、概ね、大人に見守られている環境にあるという状況であったことから、引き続き、動向を注視してまいりたいと考えております。	子ども未来部 子ども健やか育成課
4	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P16	ショートステイ	(1)の「利用延定員」の算出根拠についてご教示願います。さゆり園、くろみ学園、函館国の子寮のいずれも空床型のショートステイなので、満床だったりコロナ等の感染症があった場合、受け入れ困難となっていますが、その点を勘案されているのでしょうか。	利用延定員は、現行の委託先から昨年度聞き取りした1日の受け入れ可能人数の合計を年間人数にしたものであります。単純な延定員のため、人員不足や満床等施設側の理由により受け入れできないなどの要素につきましては、反映させていないものであります。	子ども未来部 子育て支援課

No.	委員	意見等			市の考え方	担当課
5	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P16	ショート ステイ	<p>ショートステイを希望しても、空きがなくなると断られたということで児童相談所に保護者から連絡が入ることが度々あります。また、函館市子ども・見守り相談課や母子保健課からも同様に、ショートステイが困難なので、児童相談所で一時保護していただきたいという連絡が入る現状があります。実際のニーズに対して、明らかに供給量が足りていないと思われませんが、ニーズ量をきちんと把握されているのかご教示願います。</p>	<p>ニーズ量につきましては、本計画では本市の実績や国の手引きにあるニーズ量の考え方に基づき算出するなど、適切にニーズの把握に努めているところですが、空床利用型のため、受け入れができなくなるケースがあることを施設から聞いており、課題であると認識しております。</p>	子ども未来部 子育て支援課
6	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P16	ショート ステイ	<p>(2)の「確保方策」の「量の見込み」について、前述の疑義事項と重なる面もありますが、算出根拠をご教示ください。また、「確保方策」についても同様で、各施設は職員の確保等に苦慮しており、仮に空きがあったとしてもショートステイの受け入れは困難だったり、入所定員減についても検討している現実があります。そのような現状で、「確保方策」に示されている人数は非現実的と言わざるを得ません。各施設の現状を考慮して、算定されたものなのかご教示願います。</p>	<p>「量の見込み」につきましては、新型コロナウイルス感染症により利用が落ち込んでいる令和2年から令和4年を除く、直近4年間の平均値を用いたところであり、「確保方策」につきましては、ご意見を踏まえ、改めて委託先の施設と今後の受入れの見通しについて協議し、空床の場合の受入れ可能人数を見直したことから、確保方策について修正することとします。</p> <p>満床等の施設側の理由により受け入れできないなどの要素は、反映させていないところではありますが、各施設の受入れ状況につきましては、定期的に確認してまいりたいと考えております。</p>	子ども未来部 子育て支援課
7	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P16	ショート ステイ	<p>今回示されたショートステイ事業については、さゆり園、くるみ学園、函館国の子寮での実施を想定されたものと理解していますが、障がいをお持ちのお子さんのショートステイについて触れられていないと思われま。障がい児のショートステイについては、相談支援事業所等対応されているかと思いますが、受け入れ先がないということで、相談支援事業所等から相談を受けることも度々あります。障がい児のショートステイ先としては、おしま学園や障がい者のグループホーム等が該当すると思われまますが、前述のショートステイと同様に供給量は不足しており、抜本的な解決策が必要と考えま。このことについて、どのようにお考えでしょうか。</p>	<p>ショートステイにつきましては、障がいの有無での区別は設けず、委託先の施設で対応が可能であれば受け入れているところでありま。</p> <p>障がいの状況により障害福祉サービス事業所の短期入所等を利用する場合もあると考えており、今年度策定する函館市子ども計画において、障害福祉サービス事業所の取組みについて盛り込むことを検討してまいりま。</p>	子ども未来部 子育て支援課
8	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P16	ショート ステイ	<p>ショートステイ先の確保については、他自治体も苦慮されていると思いますが、他自治体の実状等を調査されたのか、函館市として独自の確保（対応）策を検討されているのかご教示ください。</p>	<p>委託先の施設において、手厚い支援が必要な児童の増や施設職員の人員不足のほか、近隣の市町とも委託契約を締結し受け入れしているなど、量の確保に課題があると認識しております。</p> <p>こうした状況を踏まえ、他都市の制度内容について、これまで把握している情報に加え、より詳しい実情や対応等について調査する必要があると考えていることから、実施してまいりま。</p> <p>今後におきまは、新たな地域資源の活用も含め、確保方策について検討してまいりたいと考えております。</p>	子ども未来部 子育て支援課

No.	委員	意見等			市の考え方	担当課
9	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P20	トワイ ライトス テイ	トワイライトステイの「量の見込み」及び「確保方策」の数字の算出根拠をお示しください。トワイライトステイの受け入れ先は、さゆり園、くるみ学園、函館国の子寮、やしの夢の4ヶ所が想定されますが、ショートステイと同様、施設の受け入れは限定的だと思われます。	「量の見込み」につきましては、新型コロナウイルス感染症により利用が落ち込んでいる令和2年から令和4年を除く、直近4年間の平均値を用いたところであり、「確保方策」についてから昨年度聞き取りした各施設の1日の受け入れ可能人数の合計を年間人数にしたものであります。単純な延定員のため、人員不足や満床等施設側の理由により受け入れできないなどの要素については、反映させていないものであります。なお、各施設に令和6年4月から6月までの受け入れ状況を確認したところ、申込みをすべて受け入れております。	子ども未来部 子育て支援課
10	浜委員 (北海道函館児童相談所)	資料4 P22	子育て援助活動支援事業 (ファミリー・サポート・センター事業(就学後))	(2)「量の見込み」と「確保方策」(案)の「量の見込み」で低学年・高学年ともに漸減していますが、(1)の利用実績で低学年は漸増していることを鑑みますと、見込みの捉えにずれがあるように思われます。 また、6月26日の会議で函館市ファミリー・サポート・センターの高野委員の発言で、会員の高齢化が進行してお子さんを預けることに躊躇するという内容があったかと思いますが、「確保方策」(案)で示されている人数を確保することは困難と考えますが、今後の展望についてご教示ください。	「量の見込み」における、低学年、高学年の人数は、ニーズ調査結果の利用意向から算出した就学後児童全体の人数を用いております。過去5年間の利用実績では、低学年は漸増しているものの、ニーズ調査結果や推計人口の漸減に鑑み、今後の見込みとしては減少するものと考えております。 「確保方策」については、前年度からの伸び率を令和5年度実績に乘じて推計しており、市として確保が必要な人数と捉えております。 ファミリー・サポート・センターの提供会員については、SNSの活用、広報誌・情報誌への掲載、公共施設・スーパー・ドラッグストア等への掲示物設置等を行い、幅広い年代に向け当事業の周知の拡充を図っており、引き続き、提供会員の確保に取り組んでまいります。	子ども未来部 子どもサービス課
11	成田委員 (公募委員)	-	-	男性ももっと家事や育児に協力的になるべきとの話がありましたが、ここ数年でかなり変化があり男性も家事や育児に積極的であると感じております。例えば、産休を1カ月取った方や、子供の体調不良時に休み病院へ連れて行く方が自分の職場ではいます。若い世代が頑張っているというお話しにとても共感しました。休みを取りやすい職場の雰囲気を作っていくことも今自分ができる事なのかなと思います。	-	-
12	成田委員 (公募委員)	-	-	子ども・子育ての範疇ではないのかもしれませんが、そもそも結婚しない・できないという若者の声を聞くようになっております。経済的な問題や出会いがない、時間がないなど理由は様々ですが、結婚や子育てに負のイメージが出てきているのは確かな気がします。何か、函館市としても結婚や子育ての魅力が伝えられたいのかなと思います。私自身は、結婚して子供を授かって、交友関係が広がり、休みの日も外出し身体を動かして過ごすようになり健康的で充実した日々を過ごせていると思います。もちろん独身や子供のいない方の生き方を否定するものではありません。子育てが楽しいだけでなく大変なことはもちろんですが。	-	-